

30才で丸坊主！？周囲の方は驚かれたでしょうね。

ええ。妻は「やくざみたいだからやめて！」と反対しましたね。危うく実家に帰ってしまわれるとこでした（笑）

私にとって坊主頭は「未完の象徴」。10日に一皮行く理髪店では、鏡の前で「私はまだ一人前にならない。がんばらなければ」と自分に言い聞かせているんです。

先祖供養と親孝行は自分の幸せ。
それはこの世に生まれた意味でもあるのです。

澤田さんは、モラロジーを熱心に学ばれているとお聞きしましたが、それについてお聞いただけですか。

モラロジーとの出会いは昭和46年、37歳のときでした。その頃の私は、とにかく商人として一人前になることに一生懸命でした。そんなとき、あるお得意さんがモラロジーの話をしてくださったのです。モラロジーとは、宗教ではなく、人間として生きるための道徳で、謙虚さや感謝の心を教えてくれるものです。私は、それまでの自分がいかに高慢であったかに気づかされました。

感謝と謙虚の心ですか。具体的にはどういったことをいうのでしょうか。



何よりもまず、先祖供養と親孝行です。私が今こうして生きているのは、たくさんのおかげでしょう。だから、私は亡くなった両親の写真を肌身離さず持っています。そうすると、親の願いが伝わってくるんですよ。「兄弟仲良くしなさい」とかね。先祖や親を大事にするって

ことは、自分も、そして自分の子どもも感謝の心を持った幸せな人間になるということです。私は社員にも幸せになってもらおうと、毎年4月を親孝行強調月間とし、全社員に5千円ずつ、何か親孝行の動機づけにと渡しています。

それは珍しい試みですね。何か反応はありましたか。

毎年、社内報に親孝行月間の感想文が載るんですが、「照れくさかったけど初めてプレゼントを贈ったら親がすごく喜んだ。これからも続けていきたい」なんて声も多く、やってよかったと思っています。

日本一アホな男になりましょう。
よい師を得て、幸せな人生を歩むために。

澤田さんはすばらしい師を得て、たくさんのお話を学ばれたと思うのですが、人間として、経営者として、学んでいくうえで大切なことは何でしょうか。

「我以外皆師也」という言葉がありますが、それには謙虚な心で人と接することが必要です。すると、どんな人からも学ぶことが見えてきます。人のよいところはもちろん、悪いところが見えたとしても、自分にも同じ



ところがあるんだという反省材料にすればいい。私がどこへ講演に行っても言うのは、「日本一アホな男（女性）になりましょう」ということ。つまり、素直で謙虚になることです。そうすれば人を師と思い大切にするでしょ。こちらが大切にすれば、相手にも大事にしてもらえる。人にこうしてくれと要求するだけでなく、自分がまず変わらないとね。

私は社員もみな先生だと思っています。彼らのおかげで会社があるのですから。そして家でも妻は、神様に「お」がついたおかみさんですから、大切にします。お互いに感謝しあい、いいところを見つめ合うことで、人間関係がうまくいくのだと思いますよ。

最後になりましたが、法人会のあり方について一言お願いします。

法人会は、税務署を通じて国家に御恩返しするところだと思います。経営者である我々が、これまで支えてくれた人々や国に対し、何ができるかを考えていく場なのではないでしょうか。